

# 小学校を1校に統合！

— 適正配置検討委員会が答申 —



小坂小学校

森江野小学校



藤田小学校



大枝小学校



大木戸小学校

町教育委員会では、平成17年度から、小学校の保護者に対するアンケート調査や地域における保護者懇談会等を通じ、「将来の町の小学校のあり方」について検討し、安心・安全な施設で、さらに質の高い教育を推進するためには、『小学校の統廃合を計画的に進める必要がある』という考えを示しました。教育委員会の基本的な考えについて諮問するため、平成20年10月に町民の皆さんで構成する「国見町小学校適正配置検討委員会」を設置し、「学校適正配置のあり方」「学校適正配置の進め方」の2点について検討が行われました。その議論がまとめられた答申書が8月26日、町教育委員会に対して提出されましたので、答申の内容についてお知らせいたします。

## 検討委員会の答申

### 1. 学校の適正配置のあり方について

小学校の適正規模化を図るために、小坂小学校、藤田小学校、森江野小学校、大木戸小学校、大枝小学校（国見町分）を統合し、国見町の小学校を1校とするのがよい。

当面は現在の藤田小学校の校舎・校地を活用することとし、町唯一の小学校にふさわしい教育環境となるようその整備に万全を期する。

また、国見町民全体の教育意思として受け止め「新たな小学校」として位置付けるのが望ましい。

さらに、通学については、かかる時間・距離をふまえて、児童の健康・安全を確保するための配慮をする必要がある。

### 2. 学校適正配置の進め方について

各小学校によって置かれている状況は異なるが、新たな学校づくりの理念からしても、平成24年度を目標年度として、その発足を期待するものとする。

ただし、組合立大枝小学校のあり方に関しては、保護者・地域の方々の意思や大枝小学校組合教育委員会、伊達市側の意向を尊重し適切な対応をすることが重要である。

## 適正配置に関する検討経過および内容について

◀ 答申書を遊佐教育委員長（右）に提出する森田小学校適正配置検討委員会委員長（左）



検討委員会は、小規模校で努力され、行われている教育の成果を認めながら、より教育効果を高めるという視点に立って、教育活動上、生徒指導上、学校運営上などから、町の小学校のあり方、適正配置について検討を行いました。

その結果、国見町における小学校の適正規模は特別支援学級を除き、12学級から18学級を基本とすることにしました。この適正規模に当てはめると、国見町の5小学校のうち4小学校が適正規模に満たず、いわゆる小規模校になっています。このことから「国見町の小学校は、これらの小規模校を統合し、適正規模の学校1校にするのがよい」との結論に至りました。



▲ 小学校適正配置検討委員会は、昨年10月から今年8月26日まで6回にわたり、小学校の望ましい教育環境について話し合いが行われました。

次に、適正規模化をどのように進めていけば良いのかについて検討を行いました。既に複式学級が出ている学校があり、これらの学校の児童のことを思えば統合は急がれます。このことから、検討委員会は、統合の目標年次を平成24年度とし、藤田小学校を活用して開校することを提言しています。

しかしながら、地域によって置かれている教育的状況が異なり、さらには特別の事情を持つ地域もあることから、今後、適正配置に向けた取り組みは、保護者・地域の理解を十分に得ながら、地域の実情に即して弾力的に進める必要があります。

## 答申の公表について

今回の広報では、紙面の都合で答申書の結論部分のみ掲載となりましたが、適正配置に関する検討経過と内容につきましては、町のホームページに公開しています。また、会議録は町の公開条例に基づき閲覧することができます。

## 今後の進め方

町と教育委員会は、この答申を尊重して、小学校統廃合計画を作成していきま

す。子どもの教育を第一に考

◆ 小学校適正配置に関する問い合わせ  
国見町教育委員会 学校教育課  
☎ 585-2892  
gakko@town.kunimi.fukushima.jp